

# アルコール依存症と 診断されて

会社員 男性 40代

ある時を境に飲酒運転「根絶」と呼びかけていた。私は、9年前まで酒気帯び運転どころか酒を飲みながら運転していました。運が良かったのか、悪かったのかわかりませんが検挙されるどころか検問すらありませんでした。幸いにして大きな事故も起こしませんでした。寝るとき以外は、アルコールが体に回っている状態で仕事、家庭のいろいろな行事、もちろん車の運転等をこなしていたと思っていました。後から分かったことですが、どれもこれもみな私の思い違いでした。仕事は、職場の他の職員が助けていたのです。家庭の行事は、家内、両親、そしてまだ小学生の子どもたちまでも

が、私を助けていたのです。私は当時、全く気づいていませんでしたし、ビールを飲みながらの運転も飲酒運転と違反行為と分かりつつしっかり運転していると私自身思っていました。しかしさすがに、普通の状態（飲み方）ではないな。けど酒が体に入らないと体と頭が自分の思いどおりに動かない、動けないようになっていました。幸いに警察の検問にもあわずに大きな事故も起こしていないので私は、誰にも迷惑はかけていない。私自身が飲みたいから飲んでいるとしか思っていないませんでした。しかしよく考えて見ると変です。朝起きたらビールをまず一本のどに流し込む、会社に出勤前に

